毎月発行　大代地区　全戸配付

１月号投稿締切
１２月１２日（月）

ふれあい

平成２３年１２月　第３０６号
大代地区コミュニティ推進協議会
（広報部）
事務局：大代地区公民館
TEL０８０－５０６４－９３１９

掲載目次

● 震災復興計画に思う・・・・・・・・・・・・1
● 「大代地区のポンプ場整備及び状況について」の出前講座を終えて・・・・・・・・・・・・・・2
● 史跡巡りウォークラリーを終えて・・・・3　● ウォークラリー大会に参加して・・・・・3
● 大代の歩み（四十一）・・・・・・・・・・4

震災復興計画に思う

大代西区町内会
会長　伊藤　要

十二月に入り今年最後の月となり、寒さも一段と厳しくなる季節となりました。

未曽有の東日本大震災から九ヶ月を過ぎようとしている昨今、国においては九月二十八日に、東日本大震災を受けて、今後の地震・津波対策の最終報告が発表された。

従来は、発生する確率が低いとして、被害想定から除外されてきた「歴史地震」も考慮に入れた千年に一度の甚大な被害が予想される最大クラスの津波、一定頻度（数十年から百数十年）で発生する津波を想定し、津波のせり上がりや地盤沈下なども考慮して、「多重防御」で対応する対策を行うこととなった。

津波避難については、徒歩による避難を原則とし、避難完了までの目安となる時間は、約五分程度で避難できる避難ビルや避難路の整備の必要性を強調している。

今回の津波で大代西区にある津波避難ビルに逃げたある高齢者は、「あの建物に救われた。特にお年寄りにとっては、避難ビルがあれば安心。『五分程度の避難』を目指すならなおさらだ。」と避難ビルの必要性を感じている。

大代西区で防災訓練を実施する際は、第一避難所として、津波避難ビルの駐車場に集合して点呼を取り、避難人数を確認し、防災訓練会場に移動する。

年一回の訓練でも、今回のような有事の際には体で行動を覚えていて、いち早く津波避難ビルに避難した人数は１４０人を超えた。

気仙沼市は、県内で最も多い十五ヶ所の津波避難ビルを５００ｍに一つの割合で避難ビルがあり、計３，０００人の命を救った。又一方３，０００人を超す死者が出た石巻市は、指定避難ビルが三ヶ所しかなかった。

自治体は、地域ごとに津波の特性が異なることを踏まえ、防災対策を講ずることになる。

特に多賀城市は、石油コンビナート地域の石油貯蔵タンクの防災対策が急務となる。

今回の津波で、石油貯蔵タンク等の破損により、アスファルト塊等の流失によって、大代地区一帯の住家等に、油による甚大な被害をもたらした。それと同時に、ＪＸ日鉱日石エネルギー（株）仙台製油所の西地区タンクローリー出荷設備の爆発炎上によって大火災となり、十五日昼ごろまで燃え続け一時避難する大騒ぎになった。

この火災による民家への延焼がなかったから良いものの、気仙沼市の様な海水面の火災が発生していたら、貞山運河・砂押川は、火のついた油等により大代・桜木・鶴ヶ谷・八幡地区が大火災となり、この世の地獄になったかもしれない。

つまり、現行の石油コンビナート防災対策では、不十分であり付近住民が被害に遭わないように、国・県・関係市町で検討しなければならない。

震災発生から今月十一日で九ヶ月、県内で十九市町が復興計画を策定する。